

平成30年度地方創生推進交付金事業 幸手市郷土愛醸成・魅力発信事業検証結果

交付対象事業の名称及び事業内容	交付金 充当額(円) 補助率1/2	重要業績評価指標(KPI)※平成31年3月末時点			事業評価	今後の方針
		評価指標	平成30年度 目標値	実績値		
事業名：幸手市郷土愛醸成・魅力発信事業	4,004,834円	権現堂年間観光客数(人)	平成29年度と比較して 50,000人増	平成28年度実績と比較して 437,750人増 (平成30年度実績 2,248,750人) (平成29年度実績 2,012,000人) (平成28年度実績 1,811,000人)	KPIとして設定した権現堂年間観光客数、郷土資料館来館者数については、目標値より大幅に達成し、平成30年度に実施した事業は、交流人口の増加を図ることに有効であったと評価できる。しかし、人口の社会動態減少数のKPI目標値については、達成することができなかった。今後とも継続して取り組んでいく必要がある。	地域再生計画期間中は、3か年で計画的に事業を実施する。平成30年度に開館した郷土資料館については、開館連続記念講演、特別展示などをはじめ、資料館を活用するための体験冊子や住民が自らかかわることができるものづくり体験講座などの開催により郷土愛の醸成につながる取組を行うことができた。今後は特に、平成30年度に取組はじめた体験講座の養成など人材育成につながる事業への取組を実施していく。
【事業概要】 地域再生計画(計画期間 平成29年度～平成31年度)の認定を受けた事業(事業内容は3か年の計画の内容) ・国内外の観光客及び住民に対し、幸手市の観光、歴史的な資源を活用し、幸手市の魅力を体感してみたいと思わせる効果的なPR動画を作成し、発信する。 ・日光街道の宿場町の名残のあるまちなかにおいて、地元芸術家を中心としたNPO法人の協力のもとアートを展示し、交流人口の増加を図る。 ・平成30年度に開設する郷土資料館で幸手の歴史に関連した地域資源を活かしたものづくりの体験ができる講座を実施し、郷土に対する愛着を醸成する。 ・現在民具資料館として使用している旧幸手町立吉田中学校校舎を歴史的に保存し、有効活用する方法を官学連携により研究する。	郷土資料館来館者数(人)	※毎年度の増加分を目標値設定 ※郷土資料館については、平成30年10月23日(開館日)以降	1,500人	4,166人		
【実施内容】 平成29年度から引き続きアートさんぽ展の実施、2か年かけて幸手市の魅力を発信するPR動画を作成することができた。さらに、10月23日開館した郷土資料館開館関連事業、旧吉田中学校木造校舎再生事業検討事業費補助事業を実施した。 ①幸手市の魅力を発信するPR動画「このまちが好き 幸手市」の作成(事業費 1,393,200円) ②平成30年度アートさんぽ展の実施(事業費 1,999,200円) 平成30年4月1日(日)～4月8日(日) 来場者数 4,950人 平成31年3月24日(日)～3月31日(日) 来場者数 8,670人 ③郷土資料館開館に伴う事業(事業費 4,411,881円) ・幸手の歴史体験学習講座(ものづくり体験講座「わらで作る正月かざり」)の実施 ・機織り体験市民ボランティア養成講座の実施 ・開館記念連続講演会の実施 ・開館特別展展示の作成 ・郷土資料館体験冊子作成 ④旧吉田中学校木造校舎再生事業検討事業費補助事業の実施(事業費 205,388円) 旧吉田中学校木造校舎の保存及び有効活用の方法の研究を日本工業大学と官学連携により実施 ・旧吉田中学校校舎の沿革・建築概要と施設の変遷 ・廃校校舎活用事例調査(茨城県石岡市朝日里山小学校、栃木県太田市hikari no cafe蜂巢小珈琲店) ・旧吉田中学校の児童用机・椅子の復元設計及び椅子の製作	人口の社会動態減少数(人)	※毎年度の減少数の減数を目標値設定	70人	対前年度比 △69人 (目標より139人減少数を達成することができなかった。) (平成30年度実績減少数 214人) (平成29年度実績減少数 145人)		
	8,009,669円					

幸手市まち・ひと・しごと創生市民会議委員の意見
古民家で芸術作品を展示するのは、幸手のまちなかを回遊してもらい取り組みとしてはよかったと思う。社会動態人口の減少をくいとめるためには、若い人が入ってくるようなまち、子育て世帯をひきとめるための施策、高齢者の人の能力を發揮してもらい、生きがいづくりにもつながる仕組みづくりが必要なのではないか。